

引退する3年生へ・・・

秋田中央高校の優勝で幕を閉じた今夏の高校野球秋田大会。本校は残念ながら2回戦で敗れましたが、鈴木監督の熱いメッセージが7月20日付「朝日新聞」に掲載されました。

監督から選手へ 最後の言葉



秋田修英・鈴木寿宝監督（50）

▽2回戦 4-5由利
お疲れさん。負けてしまつて、残念だった。うん。悔しくてしょうがない。けどもまあこれは結果なので。これを受け入れなぐちやいけない。
きょうすけ。たいが。きっぺい。ひろ。

第101回全国高校野球選手権秋田大会は18日までに、1回戦く準々決勝の計40試合が終了。出場した44チームのうち40チームの夏が終わった。高校野球を卒業する3年生らに、監督が「最後のミーティング」でかけた言葉とは――。

積み重ねた努力 間違いない

3年生でベンチからはずれた人たち。勝てなくてごめん。俺は、優勝した場合は胴上げと思つてたけど、それができなかった。けども、いいチームか悪いチームか。つていうのは、ベンチから外れてしまった3年生がどういふ行動をするかによつて決まると思うんだ。みんな、すごい良かったと思う。本当勝てなくて悪かつたけど、かなり勇気づけられた。

3年生は高校野球終わつてしまふんだけど、今まで積み重ねてきたもの、これは決して間違いない。いろんなことを我慢してきて、目標に向かつて一生懸命努力して、仲間のためにいろんなことをやつてあげて、仲間を助けて、というように一生懸命してきた。これは、高校野球が終わつたからもういいやつてことではない。せつかく積み重ねてきたもの、みんなの財産、みんなで培ってきたもの、みんなの身にしみてわかつていふこと、振る舞い続けてくれ。

あと、1、2年生。これだけ頑張つた3年生だ。けども、これでも負けた。これでも負けた。おまえら3年生より頑張つてるか。これだけ頑張つてもまだ負けるぞ。3年生が残してくれたものがいっぱいある。それを忘れずに、そしてそれ以上に、頑張ることだよ。それが3年生に対する恩返しだ。

14日